

# 水環境館いきものトピック Vol.8

## 生き物たちの餌

水環境館では現在、約70種400匹以上の生き物を飼育しています。一番多いのは魚類ですが、爬虫類や両棲類、水生昆虫や甲殻類などもあるため、生き物にあわせて様々な餌を使っています。

### 魚・水生昆虫・甲殻類の餌



【配合飼料】

メダカ用とコイ用がメイン。浮くものと沈むものがあるため、魚の種類によって使い分ける。



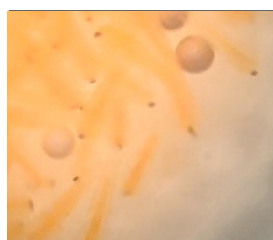
【赤虫】

ユスリカ類の幼虫。冷凍されているものを解凍して使う。水生昆虫も好んで食べる。



【野菜】

栄養が偏らないよう、様々な野菜をペーストにして与える。写真はかぼちゃとほうれん草。



【ブラインシュリンプ】

生まれたての魚に与える。プランクトンの一種で、乾燥状態の卵を孵化させて使用する。



【魚の切り身など】

肉食魚やスッポンの主食。主にアジやイワシを使用する。ミンチにするとビハゼがよく食べる。

### 爬虫類・両棲類の餌



【ヨーロッパエコオロギ】

カエル類とトカゲ類の主食。時々カルシウムパウダーをまぶして与える。



【冷凍マウス】

ヘビにとっては完全に栄養食であり、食後はネズミの毛だけを糞として排泄する。

生き物は、自然界だと色々な種類の餌を食べています。例えば、肉食性の魚も、魚しか食べないのではなく、甲殻類や水生昆虫、ミミズをはじめとする環形動物など、あらゆるものを餌としています。昆虫を好んで食べるカエル類も、様々な種類の虫を食べます。一方、飼育されている生き物たちは、どうしても飼育する人が入手しやすい人工飼料に餌が偏ってしまいます。そうすると自然界よりも摂取できる栄養素が減り、体調を崩してしまいがちです。水環境館では、そういった状態にならないよう様々な餌を、生き物のくちのおおきさや習性に合わせて与えています。

また、自然界といても餌を食べられるわけではありません。ヒトのように、常にエネルギーを使う生き物は、その素となる栄養をこまめに補給しなければなりません。基本的にじっと動かない生き物たちは、毎日餌を食べると逆に体を壊してしまいます。そのため、

水環境館では(種類にもよりますが)魚類は2~3日、ヘビは1週間から10日に一度の間隔で給餌しています。

生きたコオロギや冷凍のネズミを与えていると、たまに「可哀そう」と言われることがあります。たしかに、生き餌を使う場面は衝撃的かもしれませんが、それを娯楽としたうで見世物にするのは私も反対です。しかし、私たちも他の生き物の命のおかげで生きています。たまたまコオロギやネズミが私たちの食べ物ではないだけで、薬や衣類、愛玩など、様々な命を消費していることには変わりないのです。人工飼料にも天然の魚が使われています。紫川の今を伝える生き証人である展示生物が少しでも健康に暮らせるよう、様々な餌を与えているのです。

